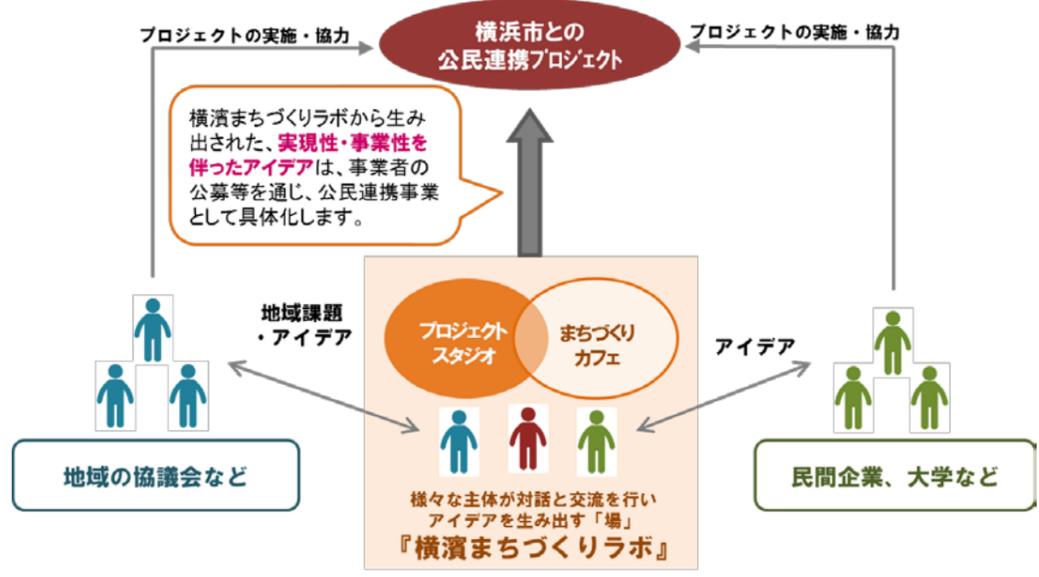


第5回横浜まちづくりラボ 関内駅周辺地区の将来像について議論しました！

【参考：横浜まちづくりラボとは？】

横浜市が提示するテーマや地域課題について、市民、企業、大学や行政などの様々な主体が対話と交流を行いながら、多様性の中で解決策を考え議論を積み重ねることで、**事業性を伴ったまちづくりのアイデアを生み出す「場」**として横浜市が運営しています。



- ※まちづくりカフェ・・・関内駅周辺地区のまちづくりに関心のある人々が集まり、交流しながら、まちのコンセプト（将来像）などについて議論します。
- ※プロジェクトスタジオ・・・文化体育館再整備や現市庁舎街区の利活用などの具体的なプロジェクトについて実現可能性等を議論します。

平成26年度の開催実績

| | | |
|-------------|---------------------------|---------|
| 第1回(7月1日) | まちづくり検討の「場」とは何か(まちづくりカフェ) | 約130名参加 |
| 第2回(8月7日) | 文化体育館再整備シリーズ1(プロジェクトスタジオ) | 38名参加 |
| 第3回(9月4日) | 文化体育館再整備シリーズ2(プロジェクトスタジオ) | 38名参加 |
| 第4回(9月18日) | 文化体育館再整備シリーズ3(プロジェクトスタジオ) | 39名参加 |
| 第5回(11月10日) | 関内駅周辺地区のまちの将来像(まちづくりカフェ) | 46名参加 |



横浜まちづくりラボに対するご意見（アンケートより）

- ・一つのテーマを取り上げても、様々な議論が広がり関内がポテンシャルあるまちだと感じた。
- ・ラボを継続的に開催し、参加者のスキルアップとともに建設的な議論ができる場になってほしい。
- ・自分と違う考えの人がいるが、根っこは同じ気がする。
- ・街作りは多様性を意識することが大切と感じた。
- ・ワーキング結果がどのように施策に活かされるのか、スケジュールをあわせて提示いただきたい。市の財政やまちづくりの大きな方針の説明が欲しい。市に率先して案を提示いただきたい。
- ・構想をまとめるには時間が不十分、テーマが広くまとめられない。

いただいた御意見を踏まえ、進行方法等を改善しながら運営してまいります。



第5回横浜まちづくりラボでは、「あなたが考える関内駅周辺地区のまちの将来像」をテーマに
 ○まちのコンセプト
 ○そのために必要なもの（施設、機能など）
 ○結果のイメージ
 について議論し、まちづくりの方向性について参加者の皆様と考えました。

開催概要

開催日時：平成26年11月10日（月） 18:30～20:30
 開催場所：関内新井ホール
 参加者数：46名
 参加者の構成：地元協議会等、設計・建設・不動産業、金融業、大学等教育関係、コンサルティングサービス、メディア関係、スポーツ関係、医療・福祉関係



エントリーシート概要

参加者の皆様には、申込時に「あなたが考える関内駅周辺地区のまちの将来像」を提出していただき、当日の進行の手がかりとしました。ラボ参加前に参加者の皆様がイメージされていた「まちの将来像」を整理すると、主に下記のような視点に分類されます。

<参加者が事前にイメージしたまちの将来像>

- 「国際都市・観光・集客」の視点
 - ・国際交流の拠点、国際的バリアーの無いまち、おもてなし環境の整ったまち
 - ・歩いている「人々」に目がいくようなまち
 - ・全国から人が集まるまち、賑わいのあるまち、安全安心なまち、
 - ・横浜市庁舎時代よりも集客力のある魅力的なまち など
- 「知識・情報の集積」の視点
 - ・知識・情報交流の拠点があるまち
 - ・世界の知が集まる交流拠点都市
 - ・大学等の誘致により若年層を取り込み、産学連携の賑わいがあるまち など
- 「スポーツ・健康」の視点
 - ・スポーツ・健康・交流の拠点や「未病」をコンセプトに健康でいられるための情報センターがあるまち
 - ・スポーツとまちの資産・文化がつながるまち
 - ・バスケットシティー・スポーツシティー など
- 「文化・芸術・歴史」の視点
 - ・文化・芸術の交流拠点となるまち
 - ・歴史・文化・資産を丁寧に扱うまち
 - ・クリエイティブシティ など

<グループディスカッションによるまちの将来像>

第5回横浜まちづくりラボでは、A～Eの5グループに分かれてディスカッションを行いました。地区の「特性」や「課題」、「地区内における事業の可能性」を考慮していただきながら、

- まちのコンセプト
- そのために必要なもの（施設、機能など）
- まち（結果）のイメージ についてアイデアをいただきました。

アイデアを整理すると主に以下のまちのイメージに分類されます。

- ◇ “スポーツと健康”により健康になりたい人が集まり楽しく暮らせるまち
- ◇ 知識や情報が集積し多様な人材の出会いと交流が起こるまち
- ◇ 外国人が来たくくなるような日本の魅力を感じるまち
- ◇ “関内で働き、関外に住む”職住が近接したまち
- ◇ 歴史や伝統、資産を活かしたまち
- ◇ 魅力的な街路により歩きたくなるまち



Aグループ

○知の集積による出会いと交流の一大拠点をつくる

大学等の集積によって知識・情報や多様な人材が集まり、出会いと交流がおこるような拠点をつくる。拠点を中心として、企業も参加したくなるような活動を生み出す。



©2012 Matthew (WMP), on Wikimedia Commons, CC BY-SA 3.0.

交流の拠点

○アフターコンベンションの機能を充実させる

特に、海外からの来訪者はアフターコンベンションを求める。歴史・伝統・芸術・ダウンタウンの雰囲気と魅力を活かし、MM21を補完するアフターコンベンション機能を充実させる。

○健康×スポーツのまちづくりモデルをつくる

横浜文化体育館や横浜スタジアムを核とし、スポーツに触れることのできる空間をちりばめることで、健康意識の高い人や企業が集まる。健康とスポーツを組み合わせたアジアのまちづくりモデルをつくる。



©2013 NYCDOT, on Flickr, CC BY-ND 2.0.

スポーツに触れる空間

Bグループ

○歩きたくなる、走りたくなるまち

街路設計の工夫や多くの飲食店の立地、明るい印象を与えるイルミネーションなどにより、歩きたくなる、走りたくなる都市空間をつくりだす。美味しい香りがすると、まちを歩きたくなる。



©2007 Wolfiewolf, on Wikipedia, CC BY-SA 3.0.

イルミネーション



©2013 NYCDOT, on Flickr, CC BY-ND 2.0.

歩きたくなるまち

○国際性豊かなまち

21世紀の開港として、世界中から若者が集まるまちにする。外国人の居住を促進し、大学やインターナショナルスクールの誘致を行う。歴史を活かし、海外の人から見て、日本の価値として認識されるような魅力的なまちにする。

○大人の好奇心が刺激されるクリエイティブなまち

ポートランドやシリコンバレーのように、まちなかに創造性を感じることが出来るまちにする。



歴史的建築物がまちづくりに活かされる

○地区で暮らす・働く人が健康になれるまち

医療福祉施設が充実し、健康で楽しい新しいライフスタイルが提示できるまちにする。

Cグループ

○“道”で生きる

様々な路地空間でイベントが行われ、それぞれがストーリーをもった道となる。道が多世代をつなぎ、魅力のある空間に外部から人が集まってくる。



©2009 NYCDOT, on Flickr, CC BY-ND 2.0.

イベントのあるストリート

○健康になりたい人が集まる

高齢者から若者まで同じ趣味やスポーツを通じて健康づくりができる、健康に関わる情報がキャッチできるなど、この地域に来れば健康になることができるまちとして、健康づくりの中心的な機能を担う。



©2010 na0905, on Flickr, CC BY 2.0.

健康づくり

○関内で働き、関外に住む

関内で働き、関外に住む。職と住が近接することで、子育てもしやすい暮らしやすいまちとなる。人が楽しんで暮らしていることが見えることで、人が集まってくる。



http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/shien/support/

子育て

Dグループ

○過去・現在・未来をつなぐハブのまち

関内駅周辺地区は、「交通」や「職住」、「過去から現在の歴史」が交錯するハブである。過去、現在、未来を“プライド”という視点でつなぎ、この地区で暮らす人々のプライドが見えるまちができる。



横浜の歴史をつなぐ

○気軽に“スポーツ”に触れることができる

施設の中だけでなく、道や公園でスポーツが行われている。スポーツできる空間がまちに点在し、住民や従業者がスポーツに親しむことができる。また、スポーツの指導者がたくさんいて、学ぶことができる。



©2008 Joe Meier, on Wikipedia, CC BY-SA 3.0.

まちなかに点在するスポーツ

○医療施設が充実した健康になれるまち

スポーツと医療・福祉が連携し、健康になれるまちにする。

○国際性のあるまち

国際性のあるまち。外国語が話せる人を増やし、国外向けの観光窓口を設け、ホスピタリティ溢れるまちとする。

Eグループ

○巨大医療都市などのインパクトのある拠点をつくる

現市庁舎移転を契機に駅前都心立地の一等地を活かして「医療都市」をつくる。見舞いに来た人が長期滞在できる施設、スポーツやアートを楽しめる施設を周辺に配置し、見舞いに行きたくなるまちとなる。



大規模病院

○海岸沿いを走るランナーを引き込む

ランニングステーションやルートの設定などランニング環境を整え、海岸沿いを走っているランナーを関内駅周辺に引き込む。医療施設とも連携した健康づくりが楽しめる。関内・関外の人の流れを再構築する。

○横浜都心部のどこにもない独自のものをつくる

市内の他エリアとの役割分担・補完関係から、この地区に必要なものを考える視点が必要。「横浜の都心部のどこにもない独自のもの」をこの地区につくっていく。

○公共空間の活用

公有地や公共空間を集客力のある機能やイベントを行う場所として活用し、賑わいをつくる。